

## 千葉県争議総行動

日時：11月15日（金）8時～  
場所：海浜幕張駅スタート

# ちば労連

ホームページ <http://chibarouren.jp/> メール [chibarouren@axel.ocn.ne.jp](mailto:chibarouren@axel.ocn.ne.jp)

第 263 号 URL 版 2013 年 10 月 31 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1面】

# 原発ゼロ・労働法制の改悪反対 連帯して国民要求実現を

## 連携強化し運動をすすめよう

### 脱原発サミットちば開催

脱原発を巡る運動はどんどん強まってきています。千葉県では9月22日袖ヶ浦、千葉、船橋、市川、浦安、柏など、県内で原発なくす運動をしている団体など、12団体26人が参加して脱原発サミットちばが開催されました。

サミットでは活動内容や悩みの交流、今後の取り組みのお誘い、連携強化、産廃問題などが話されました。そして脱原発10・13大集会にはみんなでいこうなどを確認しました。次回のサミットは来年2月頃を予定し、各地域の持ち回りで開催していこうということが確認されました。



10.13 大集会に参加した  
脱原発サミットちばのメンバー

## 地域行動の広がりを感じる

脱原発サミットちばの取材をするにあたり、毎週金曜日の千葉駅頭での「チバでも」に、初めて参加しました。翌日に開催される10・13大集会には乗る電車を決めて、船橋で行動している人たちと合流しながら参加するようでした。

翌日、大集会のデモ出発前の日比谷公園に着いて、千葉から参加の人たちを探しながら出発待ちの時間、ウクレレを取り出して、「子どもたちに、原発はいらない」という要求を込め、笠木透の「私の子どもたちへ」を歌いました。

千葉から参加したレントゲン技師の青年から話を聞きました。弟と会おうということになってやってきたそうです。参加動員とは、縁がないんだろうと感じました。

スポーツ観戦で手作りの応援グッズをよく目にしますが、参加者のプラカードにも手作り感があふれ

ていました。手作りプラカードや家族と歩くスタイルが増えてきているなど感じましたが、それだけでなく、団体旗のもとに結集する参加形態もありだと思いました。

統一行動という時間と空間を共有したことが、地域での行動の広がりにつながっていくと感じました。  
(柳川昌孝編集委員)

## 千葉県の最低賃金が 777 円に 千葉パ臨連事務局長語る



千葉パ臨連事務局長の阿部百合子さん

中央最賃審議会の目安 19 円に対し、千葉は 2 円上乘せした 21 円で答申ができました。これによって千葉県の最低賃金は現在の 756 円から 777 円 (10 月 18 日発効) になりました。

最賃をめぐるこれまでの動きとこれからの決意を、千葉パ臨連事務局長の阿部百合子さんに聞きました。

### 今回の答申についてどう考えますか

**阿部** 千葉県は昨年に続き、中央最賃審議会の目安に上乘せをさせてきていることは、最賃委員の尽力が伺えます。(私達の要請が効果を上げていると思いたいです!) しかし全国では最高と最低の差が 205 円とさらに大きくなり、全国一律最賃制への運動強化が課題

です。この引き上げをまわりに知らせ、春闘の引き上げにも連動させる取り組みが必要だと思えます。9 月 6 日、全労連のパ臨連幹事会では、「最賃が上がっても、私の単組の労組員にとって、1 円も上がらない。むしろ人事制度の調整給で取崩されていく」と言う話に、最賃引き上げを春闘の賃金引き上げに連動させるような取り組みを作ろうと確認しました。

### 最賃をめぐるこれまでの動きは

**阿部** 全労連パ臨連が発足した当時 (2000 年) は、毎年引き上げなしの 0 円が続いていました。千葉パ臨連も翌年から活動をスタート。千葉は 12 年間で最賃が 100 円引き上がりました。使用者にとって最賃は、最も上げたくない重いトビラ。そこをこじ開け、最賃 1000 円を通過点とし、最低生計費の実現のために 1400 円を打ち出していきます。

### 次年度にむけての決意を

**阿部** 全国的最賃審議委員会では、大阪はすべて傍聴 OK。意見陳述の 4 人の枠に大阪労連が入っています。神奈川では連合から「希望者には意見陳述させろ! 地方によって金額差があるのはおかしい」と意見が出されました。一方、千葉では傍聴が少し認められているだけです。全国の仲間のようにグイグイと最賃審議会に入っていき有利に進めていくことがこれからの課題です。

## 「改悪阻止に向けて頑張ってもらいたい」

## 労働法制連絡会が宣伝

県内の労働組合や民主団体、そして法曹団体が構成される「労働法制改悪反対千葉県連絡会」が 10 月 11 日に千葉駅で宣伝行動を行い、6 組織 8 人が参加しました。

安倍政権は現在、職場・地域などを限定し、そこでの仕事がなくなっただけでもクビにすることができる限定正社員制度や、残業代ゼロ法案の導入、労働者派遣法の更なる改悪など、あらゆる労働法制の改悪をすすめています。しかし、そのことが現場労働者にほとんど知られていないことから、周知させる取り組みが必要だとして今回宣伝することになりました。

当日は1時間で約400枚のチラシとティッシュを配り、多くの通行人が足を止め、参加者の訴えを聞いていました。対話をした人からは「私の親戚も劣悪な労働条件で働いている。これ以上労働環境が悪くなるようなことには絶対になってほしくない」「こういっことは全然ニュースで見ない。勝手に変えられたらとんでもない。改悪阻止に向けて頑張ってもらいたい」等の意見が寄せられました。

ディーセントワークを実現し、労働者が安心して働ける社会の実現のためにも、更なる運動の強化が求められています。



通行人に訴える中丸弁護士

## 波濤

アンパンマンの作者である、やなせたかしさんが94歳で亡くなった。やなせさんは生前「アニメや歌の原点は何か」と尋ねられ「『生きる』ってこと。『生きる』ってことはすべての原則。だから、核兵器を作るとかけしからん。ああいうことは絶対にやっちゃいけないんだよ」と熱く語った。ひるがえって、今の日本の国内では「韓国・中国はけしからん。やられたら力(武力)でやり返せ!」と、石原慎太郎氏に代表される、子どもの喧嘩のような主張が跋扈している。そこには、お互いの『生きる』を尊重する視点は無い。きな臭い動きが強まっている。この秋のたたかいは重要だ。すべての『生きる』を守り抜きたい。



【2面】

## 横のつながり広がる

### 青年部交流企画に30人が参加

10月6日(日)、千葉市動物公園で千葉労連青年部 & 千葉土建青年部共催企画「追跡中」が開催されました。当日は他団体や他県からの参加者も含め、30名が参加しました。

テレビ番組の「逃走中」をモデルに企画を立て、動物公園で開催ということもあり、参加者はハンターから逃げながら、動物に関する様々な問題をクリアしていくという内容でした。

企画後の交流会も盛り上がり、青年部の横のつながりが広がっていることを感じる企画となりました。

「追跡中」に参加してくれたみなさん、本当にお疲れ様でした。

千葉労連青年部の定例幹事会において、毎年行ってきた『スポーツ交流』の企画を話し合っていました。「どのような企画なら青年が興味を示すか」と子どもの頃に遊んだ企画などを出し合う中、矢澤書記



他団体や他県からも大勢参加

次長の一言が全ての始まりでした。「テレビ番組にあった『逃走中』なんか面白いですよ...」。

多くの人達が交流ツールとして活用している『LINE』がその時思い浮かび、もしかしたら実現できるのではないかと話になり、半ば勢いでチャレンジすることになりました。企画をさらに盛り上げるうえで今回は千葉労連青年部主体から千葉土建青年部と共催企画にしようと提案し、各機関会議で承認を経て運営に臨みました。

今思えば、準備段階から当日の運営まで多くの課題点も出ましたが「やれそうでやっていないことへのチャレンジ」として多くの団体や青年に驚きと刺激を与えられたならば、とても光栄に思います。また、参加してくれた方からも「出来ない体験ができて子どもに戻ったみたいで楽しかった、楽しい企画ありがとう」などうれしい言葉を寄せてもらえたことが何より安心しました。

良い点も悪い点も総括をしっかりと行い、千葉労連青年部・千葉土建青年部ともに今後も色々な活動や企画にチャレンジしていきます。

## 労働相談 1 ヶ月 ~ブラック企業~

ブラック企業が話題になっています。「ブラック」の内容は、労働者をあれこれ理由をつけて使い捨てにするところに特徴があります。その事例を紹介します。

\* 20 代の女性、東京の会社に正社員として就職。面談時に小さな子どもがいるので、総務関係の事務職を希望する。入社後、総務の仕事をするのに必要という事で営業職場に配属。面談時に残業が出来るか聞かれ、週に 2 日は定時で帰りたいと伝えていた。配属先では、それでは仕事にならないと言われ、連日残業となる。9 月下旬に、体調を崩し連絡して 2 日休む。3 日後に出社すると別室に呼ばれ、体調を形だけ聞かれて、退職届を出すように言われる。話の内容から、残業が出来ない人はいないということのようだ。

\* 30 代の女性。市原市の会社に就職。面談時に子どもを作る予定があるかと聞かれ、特に考えていないと答える。6 ヶ月後に妊娠したことがわかり、会社に伝える。会社は、約束が違う、辞めてくれと言われる。

\* 派遣社員として 8 年勤める 40 代の女性。派遣先の所長はそのうち社員として採用するからと言われ期待していたが、所長が替わると、突然別の事業場に変わってと言われる。話が違うと言うと、じゃ辞めてと言われる。

最初の事例は、職場が東京と言う事から、首都圏青年ユニオンを紹介しました。次の事例は、そもそも子どもを生まない事を採用条件にすること自体に問題があり、妊娠を理由に辞めさせることは許されないと伝え、本人の意向に沿う形で解決を図る事になりました。3 番目の事例は、派遣先は、直接雇用関係にないため、約束などは無視して簡単にクビが切れる仕組みになっています。

週に 2 日定時で帰りたい。妊娠したらやめて。こんな事が許されていいのかという思いと女性労働者の働き方・働かされ方を考えさせられました。【中林】